弥富北中学校学校便り　No. 3

至　誠

令和４年９月１日発行

「自分を成長させる2学期に　～努力し続けてきた皆さんに拍手～」

【9月1日始業式　講話より】

今日から２学期が始まります。新型コロナウイルスの感染拡大がなかなか収束しません。とても心配な状況ですが、まずは、こうして２学期を始められることをうれしく思います。

皆さんは、どんな夏休みを過ごしましたか。１学期終業式では、先生たち全員が「生徒の皆さんにとって安全で楽しい夏休みになること」を祈っていました。夏休み中、大きな事故などの連絡は聞いておらずホッとしています。

コロナ禍となって、３回目の夏が終わりました。この３年間、様々なことがありました。悲しく思ったり、つらく感じたりしたことも少なくなかったかもしれません。そんな中、夏の甲子園優勝校・仙台育英高校の須江監督のインタビューに、先生はとても感動しました。その一部を紹介したいと思います。

記者：「今年の３年生は入学した時から、新型コロナウイルスの感染に翻弄（ほんろう）されてきました。それを乗り越えての優勝。３年生にどんな言葉をかけたいですか？」

須江監督：「入学どころか、多分、おそらく中学校の卒業式もちゃんとできなくて。高校生活っていうのは、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とは全く違います。青春って、すごく密なので。でもそういうことは全部ダメだ、ダメだと言われて。活動していても、どこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で。でも本当にあきらめないでやってくれたこと、でもそれをさせてくれたのは僕たちだけじゃなくて、全国の高校生のみんなが本当にやってくれて。例えば、今日の下関国際さんもそうですけど、大阪桐蔭さんとか、そういう目標になるチームがあったから、どんな時でも、あきらめないで暗い中でも走っていけたので。本当に、すべての高校生の努力のたまものが、ただただ、最後、僕たちがここに立ったというだけなので、ぜひ全国の高校生に拍手してもらえたらなと思います。」

東北勢として、実に１０８年ぶりの歴史的快挙を達成した優勝校監督から発せられた言葉は「コロナ禍に負けず、すっと努力し続けてきた、全国の高校生への労いや敬意」でした。このインタビューを聞いていて、本当にその通りだと思いました。

そして、これは弥富北中の皆さんにもそのまま当てはまると思います。コロナ禍に負けず、学校生活に努力を続けてきた皆さん全員に拍手を送りたいと思います。

「自分を成長させるチャンス」が２学期にはたくさんあります。体育祭や文化祭などの学校行事、広島研修や福祉実践教室などの学習機会。キャリア教育の一環としての「高校体験入学」や総合的な学習、毎日の授業での取り組みなども「自分を変えるチャンス」になります。

ぜひ、チャレンジを楽しみ、自分の成長を楽しんでください。３年生の皆さんは、自分の将来に思いを巡らせながら「自分の夢」と向き合ってください。そして、最高学年として１・２年生を引っ張っていってほしいと思います。２年生の皆さんは、最高学年になる準備の時期です。３年生の後ろ姿から多くのことを学んでください。１年生の皆さんは、来年いよいよ「先輩」になります。自分を大きく成長させ、「自分を変える」２学期にしてほしいと思います。皆さんが成長すれば、弥富北中学校も大きく変わります。皆さんの力で最高の弥富北中学校に変えていきましょう。